令和５年度

学校だより
１１月号

かわかみ

令和５年１１月１日

横浜市立川上小学校
横浜市戸塚区秋葉町203－２　電話 811-9345　FAX811-5961

高く跳ぶために　～意識して行動する子どもを支える～

学校長　　堀部　尚久

霜降を過ぎ、朝晩の冷え込みからも季節の移ろいが感じられます。今日から、霜月１１月を迎えました。

学校生活では、１０月１０日(火)の始業式に始まった後期前半の学びづくりも３週間経たことになります。後期の始業式で、子どもたちに川上小学校の素敵な姿として、子どもたちの二つの姿について話しました。何事にも一生懸命に頑張って取り組む姿と、仲間や友達を大事にして楽しく過ごす姿です。そして後期は、前期以上にそうした姿がたくさん見られる学校になることをとても楽しみにしているということを伝えました。

その上で、前期のそうした姿をもとにして、後期は、前よりも少しでも高い目標やめあてをもってほしいということ、少しだけ背伸びをして頑張ってみようという気持ちもって行動してほしいということ、何事においても「チャレンジ」「やってみる」という気持ちをもって行動してほしいということをさらに付け加えました。

こう考えたのは、「意識しなければ高く跳ぶことはできない」という言葉に込められたメッセージを子どもたちに伝えたいと思ったからです。ジャンプをするとき、膝をしっかりと曲げることで勢いがつくはずです。少しでも高く跳ぶためには、高く跳ぼうとする動きの準備や心づもりが必要です。高く跳ぶことや成長することを意識できるかどうかで跳べる高さは変わることになります。こう考えると、何かをしようとするとき、一つひとつの準備や動作を意識して高く跳ぼうとすることで、大きな成長も期待できることになります。

子どもたちに限らず、私たちは普段の生活では、何気なく過ごす時間も多く、何かを意識して行動するということはそれほど多くはありません。子どもたちの毎日を考えたときも、意識せずに学校生活を送る子どもも意外に多いとも思われます。成長するためには、自分の言動を一つひとつ意識して見つめ直して改善する必要があるはずです。そうした意識して行動する姿が「高く跳ぶ」「成長する」姿に繋がるものと考えられます。

後期をどう過ごすかということでは、目標やめあてをたてることが目的ではありません。何のための目標やめあてかによってその立て方も変わってきますが、目標やめあては、少しでも今より成長したい、もっとよくなりたいという思いを実現させる手掛かりにしてほしいということが、子どもたちへのメッセージでした。

以前、「真の愛情とは何か」をテーマとした教育書を手にし、「姑息（こそく）の愛」について書かれた、子育てに対する意見を読みました。その本によると、江戸時代の中江藤樹が、「江戸の子育て書」といわれる『翁問答』（おきなもんどう）で、駄目な子どもの育て方の典型としてあげているのが「姑息の愛」（こそくのあい）だというそうです。「姑息」の正しい意味は、「卑怯な」という意味はなく、「一時の間に合わせ」「その場しのぎ」ということですが、文化庁の調査によると７割の人が「姑息」という言葉を誤用しているとのことです。つまり「姑息の愛」とは、「さしたる苦労をさせることもなく、場当たり的に子どもの思いや願いのままに育てる」ということを表しているのだそうです。

学校教育の場においては、子どもの思いや願いに基づくということは、一見するととても重要な考え方でもあり、家庭教育では、慈愛の表れでもあるように思われますが、姑息の愛が繰り返されることによって、子どもは自由気ままになるということにも繋がりかねないということも考えなくてはならないということを説いているのです。子どもたちに「厳しいことはたいへんだから求めない」「我慢をさせることはかわいそうだから、もっと楽にする」というようなことも、学校での教育活動や家庭でのしつけの場面ではたくさん考えられることですが、時には、「真の厳しさ」をもって臨まなくてはならないことも多いはずです。言い換えると、少し厳しいことに向き合ったり、我慢をしながらも乗り越えたりしていくところに、自信と誇り、成就感や達成感を身に付けていくことが大きな育ちにも繋がるということも忘れてはならないということです。そうした経験を積み重ねることで、子どもたちの確かな育ちとしての成長や自立が叶うということも事実だと思います。学校も家庭も、そして地域も、私たち大人は子どもたちへの「真の愛情」とは何かを常に考え、子どもたちの様々な力を信じて、「子どもの育ち」を支えていきたいものです。

さて、明日２日(木)は、本校の特色ある三大学校行事のひとつでもある「全校縦割り遠足」です。高学年の子どもたちを中心に、これまで本当に一生懸命に自分たちのかかわりをよいものにしようと努力し、苦労を重ねながら準備を進めてきました。恐らくは、ご家庭においても、温かく子どもたちの姿を見守り、励ましながら支えていただいたことかと思います。１年生にとっては初めての経験になります。６年生にとっては、４月から培ってきたリーダーシップを発揮する機会としての全校行事となります。

後期の学校生活の中で、始業式のときに子どもたちに伝えた話がどのような姿となって見られるか楽しみにしています。子どもたちが、少しでも「高く跳ぼうとする」意識をもてるように、私たち大人は、真の愛情をもって子どもたちに関わっていきたいと思います。保護者・地域の皆様にも、真の愛情をもって子どもたちを支え、励ましていただければ幸いです。